

菊種
延命袋

久保田彦作編
假名垣魯文閱
第六篇

招堂園政画

大倉

孫兵衛



35

30

25

20

A461
65



梅堂國政画

物榮草

大倉板

茶のきり紙

延命婦の品

六海上の巻

久保田
彦作撰

日本橋通二丁目十九番地
 出版人 大倉孫兵衛
 編輯 久保田彦作
 画工 梅堂國政

48-8094



大六 菊 延 囊 命 種 尾 編 第

國政画

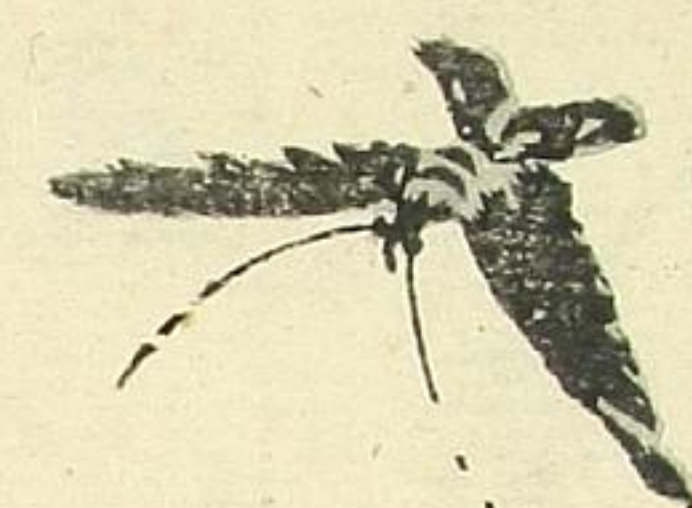
元版 錦榮堂 大明神 運入

奉

中

上

延命書



延命書



錦茶堂



極樂へのぐくの果と一休の悟道詠一又六が杉葉門小松竹枝。
 飾り年々歳々に相も變らば新版乃草雙紙が流行るあ陸續
 發兌を其分中此菊種へ足うけ三年桃のちか進桃太郎が彼
 洗濯乃綴くばほしと紺屋の癖の明後日と作者が怠惰の延引よ
 竟お其期をどまると書肆が貴苦々八大地獄足の傍ろ燭
 立ちろ形矢の催促も無理あらばと筆お任せし次の口畫まろ大切の
 淨瑠璃めしして朝妻船の出松に趣向も淺き智恵囊絞り出世
 大尾の六編了是で極樂ごととホット一息も序を

明治十三年卑月

久保田彦作漫記



南堂六二



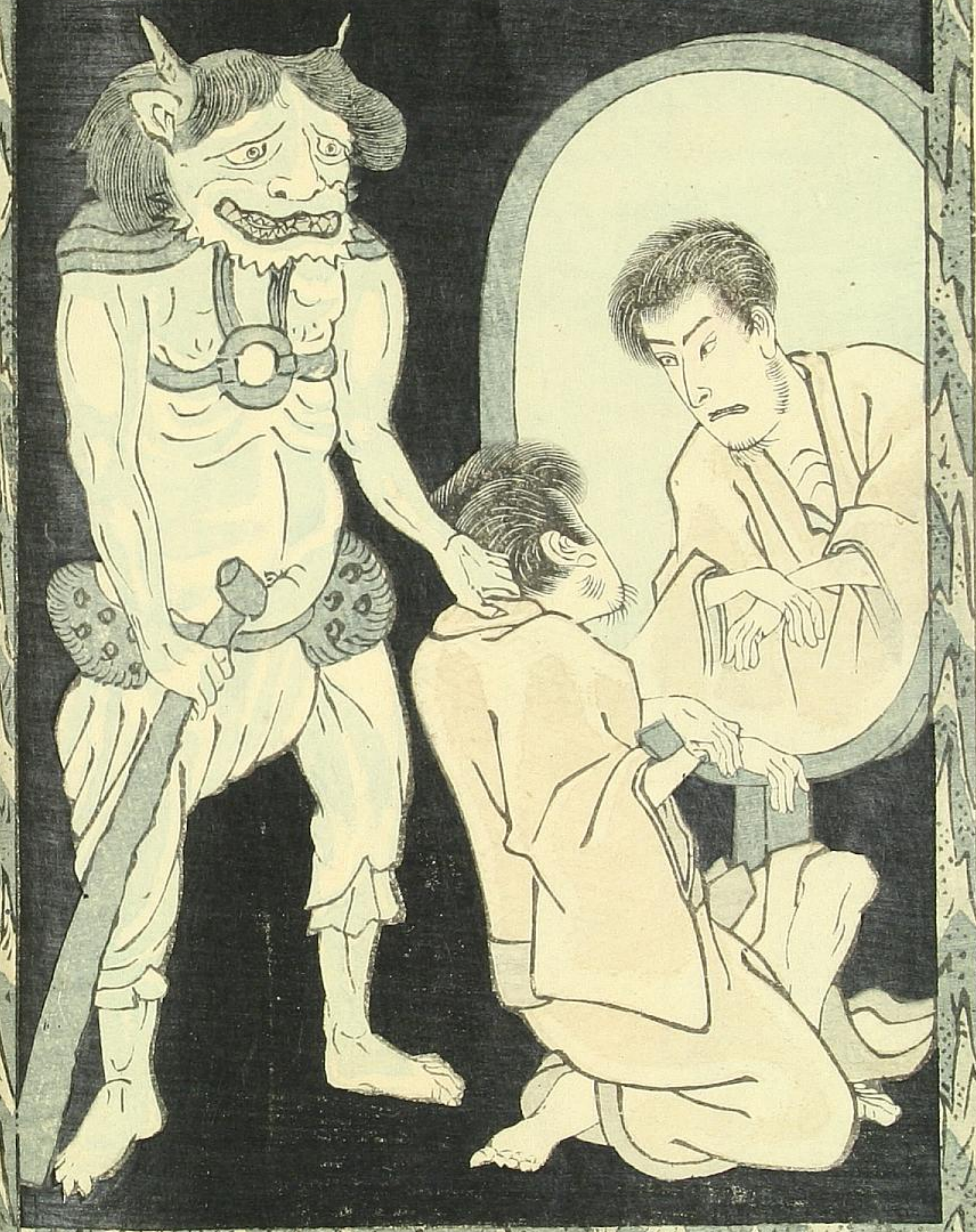
日道ひちみち
驕奢夢きょうしゃむり
紅蓮池こうれんちに
遊あそぶ

大錦おほにしきの愛女あいのむすめ
再出またで久米村くみむら

牛之助うしのおすけ發心はつしん
延命院えんめいゐん日道ひちみち

第百六十一

淨婆 梨迦 鏡面 能久 罪人 乃積 惡乎 照寸



浄婆 梨迦 鏡面

五つ入りつき 物もその内 丑之助の首用

まのふ上人か前に来依

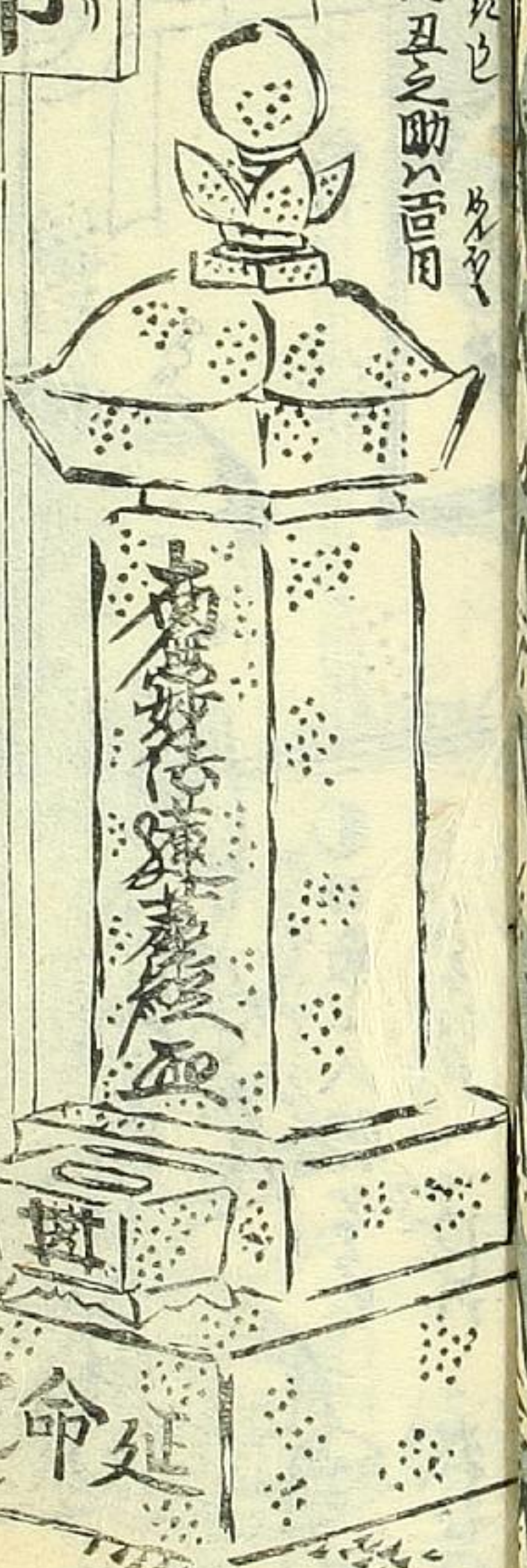
お侍一巾

後のこみ

かぶる

中して

千部 山



○ 若丸のいり道るぬ 朋者の徳優冠を助が

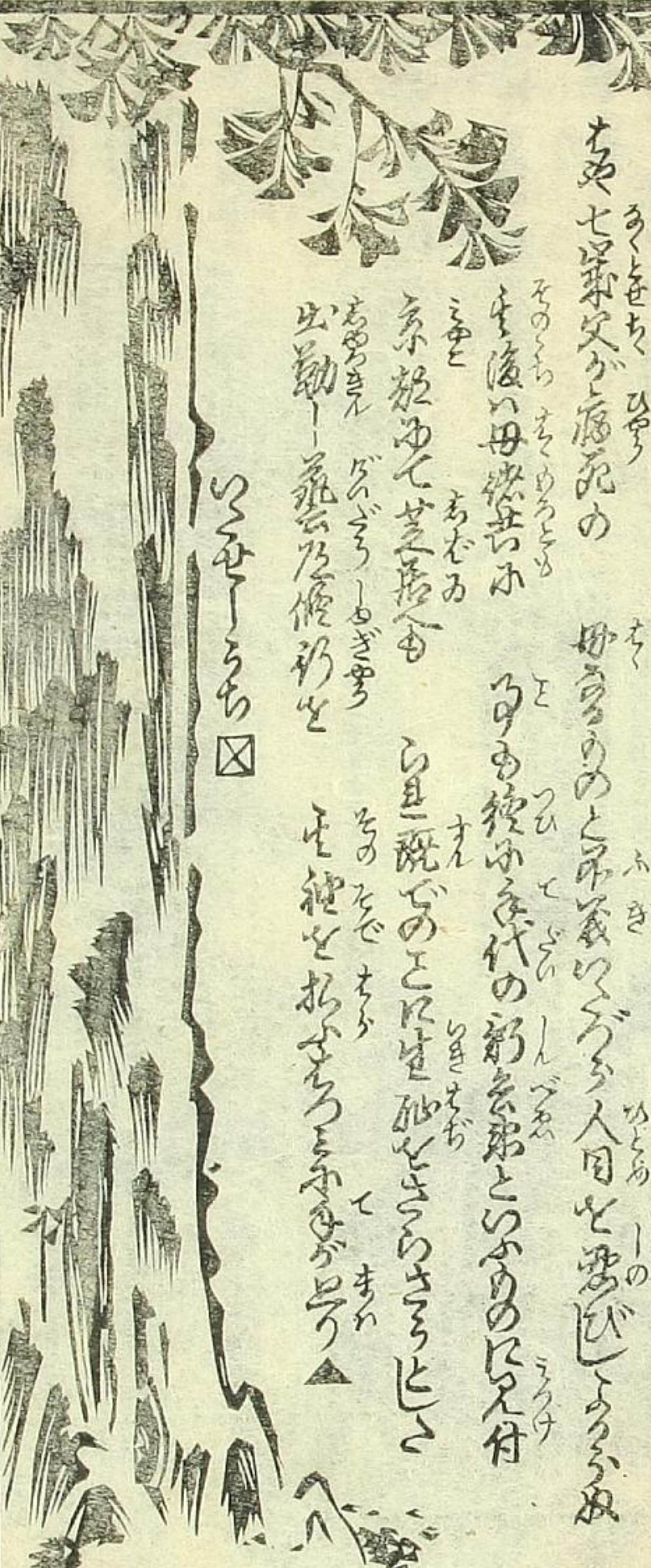
母方のいと弟をいづる人目と愛びしるるぬ

うも授けし代の新を弟とのりのに付

ら且既にのこに生れしとらさるしと

生れしとらさるしとらさるしと

○



擲 悪く 物も せ積りに けむ助が 解節人 一連の云々 像の次へ

浄婆 梨迦 鏡面

三

一命控と

世と

日比のほ

之義心

不付

ぬす

き情

助

長

切

は

座

天

勢

せ

新



色下はれとせと 窓多
あり海と共小籠む 小ひじき
作りにつりあられ

はとせと 以故
あつら 出家
あまんと
あひつら
珠と

日敷上人様とせと
引あふに戸へつり
はとせと 以故
あつら 出家
あまんと
あひつら
珠と

はとせと 以故
あつら 出家
あまんと
あひつら
珠と

はとせと 以故
あつら 出家
あまんと
あひつら
珠と

はとせと 以故
あつら 出家
あまんと
あひつら
珠と

はとせと 以故
あつら 出家
あまんと
あひつら
珠と

新

はとせと 以故
あつら 出家
あまんと
あひつら
珠と

つぎに
出家と遠

をとも松の
庭のいす

院あかぐさ

夜小遣道て

折とる合せを懐と連

せる運運くはあはれ

寄あはれをさく留まは

是と止めよと家信切の

上人か洞みけ方も案

むしまより尾上丑の

助ハ延命院か豆と

いふ言を利らね
不依不坐ひさるの
水木辰之助が如家の
餘もあはれさるる武
そこの様さうちね
人よりあはれさるる
多小助のくちまを
其職時のなまを
上人のいふ言を
ついでも不依不坐
うね能教つが存とす
こそも必りけぬ家の全



あふたつとそ糸信
の男女引ひきまね
被田を敷



掃除まじ
て立初らく

せまる共ゆと
不審と世小

穢ひるは男
子にさく

ことふ
ゆほ
のり

あはれ人
か匠か

まを
男は
の彼小
性の上

あはんと
男はさか
若あひく
あはれは

あはれは
七面宮の神カ結

あはれは
あはれは

あはれは
あはれは

あはれは
あはれは



全戒と保ち仏のた
ふのいふとた小

あはれは
あはれは

あはれは
あはれは

あはれは
あはれは

あはれは
あはれは

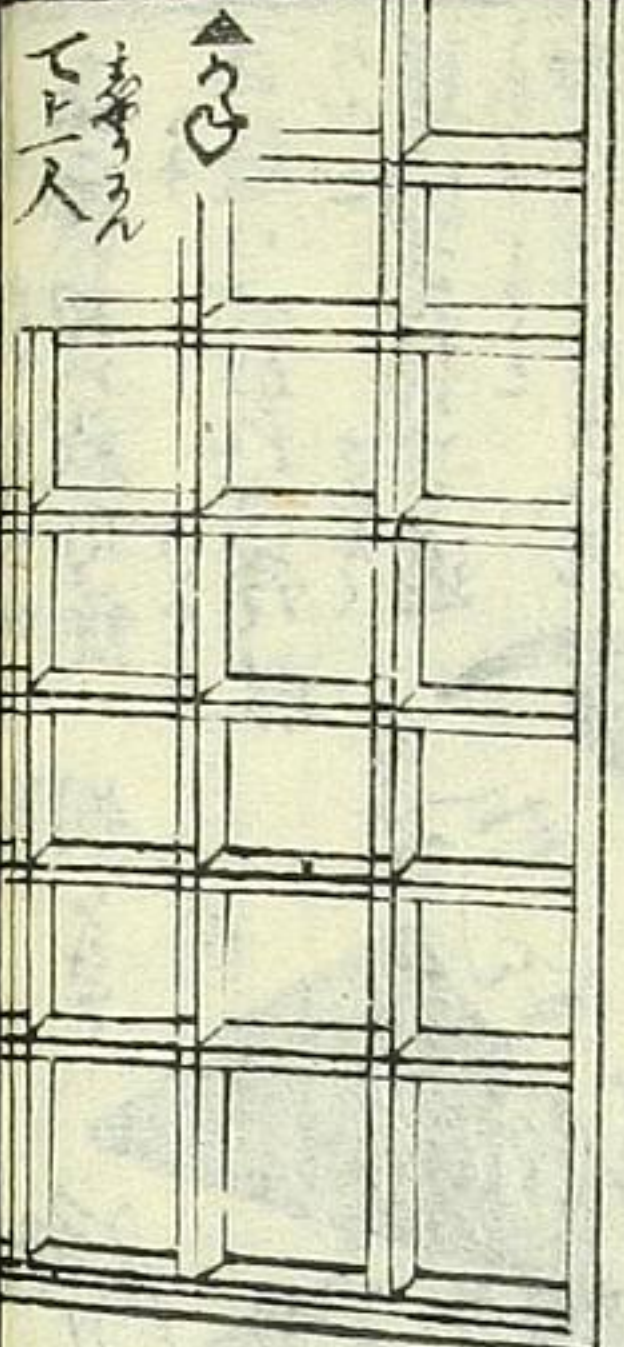
あはれは
あはれは

あはれは
あはれは

○ 何卒野子
横はてふられよと
○ 何卒野子
横はてふられよと

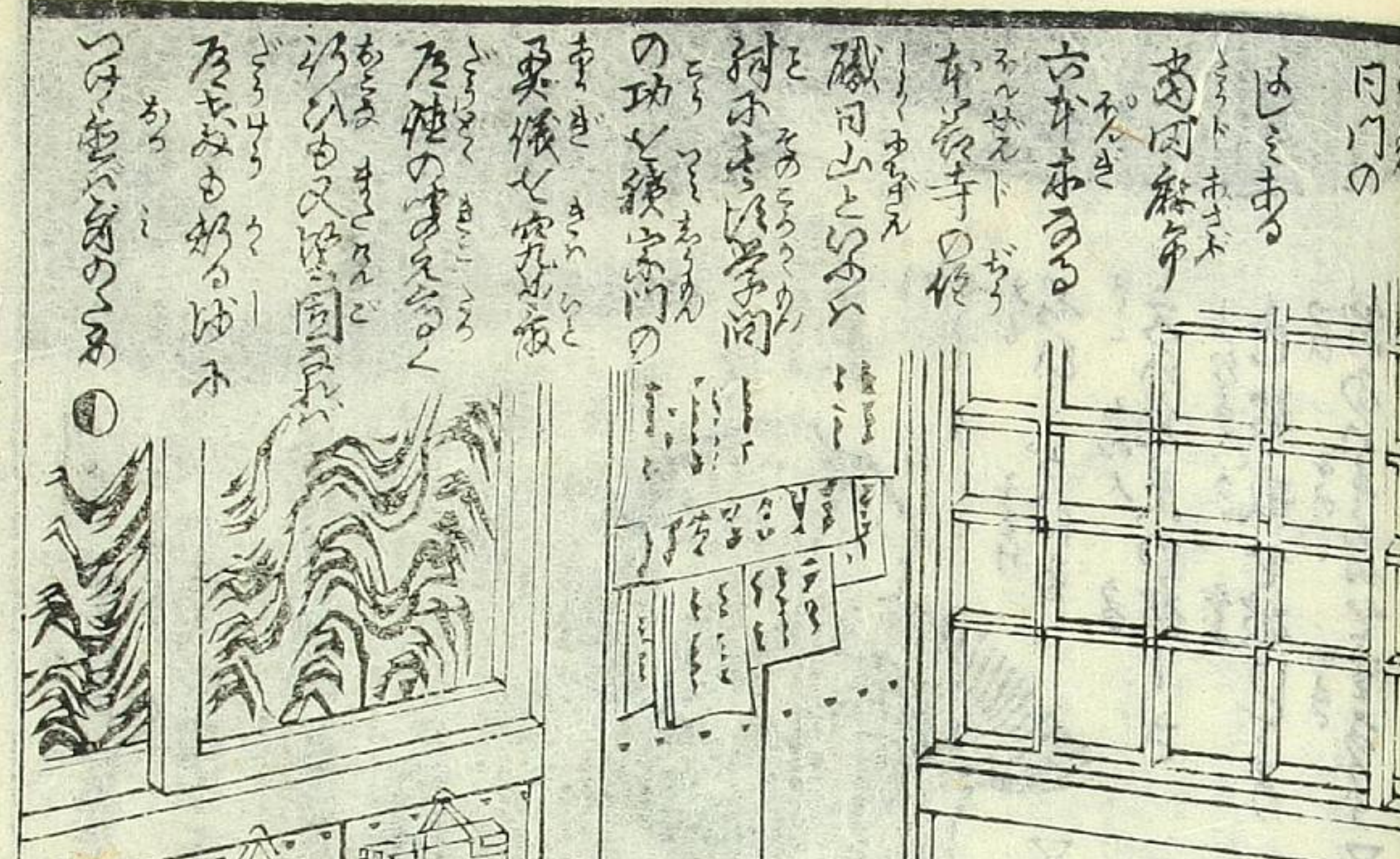


○ 何卒野子
横はてふられよと



○ 何卒野子
横はてふられよと

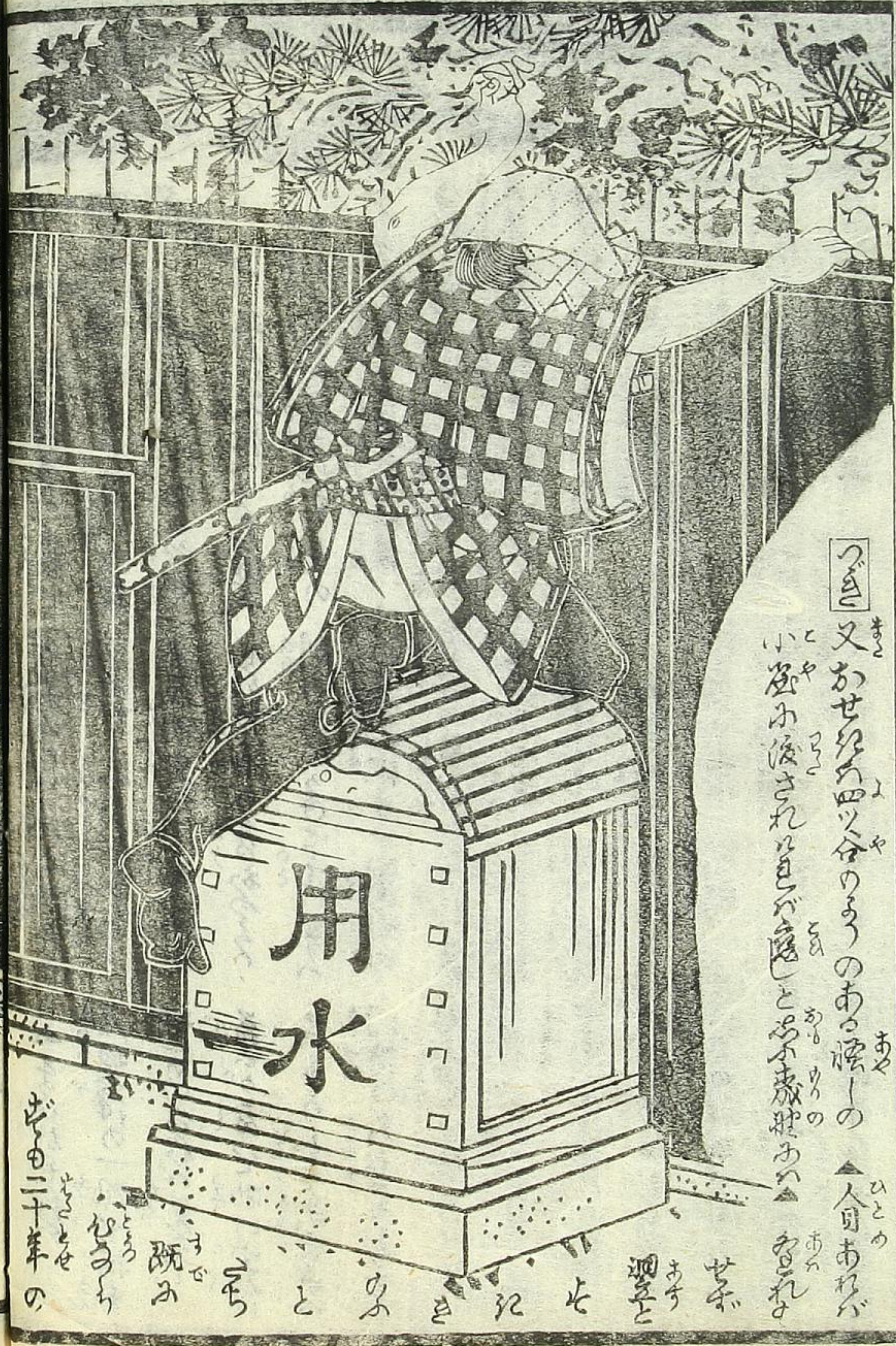
○ 何卒野子
横はてふられよと



○ 何卒野子
横はてふられよと

○ 何卒野子
横はてふられよと





又おせぬの四ッ谷のまうのあつ腰一の 人目あわが
いざよはなれぬ色かき隠しとあふ成世あひ

世の二十年の
既み
とあ
き
に
七
聖
茶
を
飲
む



元治身も白痴若むれが
互ひ小舎のあひも出さぬ何前には
再とうと人傳ゆも尋ねぬ男女が
浮蕨の情態月日のころふ控ひて
まふより好む淫酒と飲るころうに

元
と
き
せ
お
の
次へ

つぎ 貞侯の事

来て種内は位居候も

横(か)く日(ひ)は持(も)て

か(か)りた(た)と(と)人(ひと)や(や)乞(こ)

合(あ)ひ(ひ)と(と)心(こゝろ)を(を)死(し)

由(ゆ)り(り)つ(つ)ひ(ひ)を(を)走(は)り

松(まつ)の(の)枝(えだ)に(に)

迷(ま)い(い)が(が)

生(な)ま(ま)る(る)ぬ(ぬ)性(せい)

候(こう)の(の)以(も)つ(つ)酒(しゆ)

前(まへ)世(よ)に(に)元(げん)宗(そう)

却(かへ)り(り)

と(と)ま(ま)り(り)

八(は)つ(つ)重(じゆう)

男(おとこ)の(の)内(うち)

蔬(しよ)と(と)務(む)

の(の)衣(え)に(に)

夜(よ)を(を)

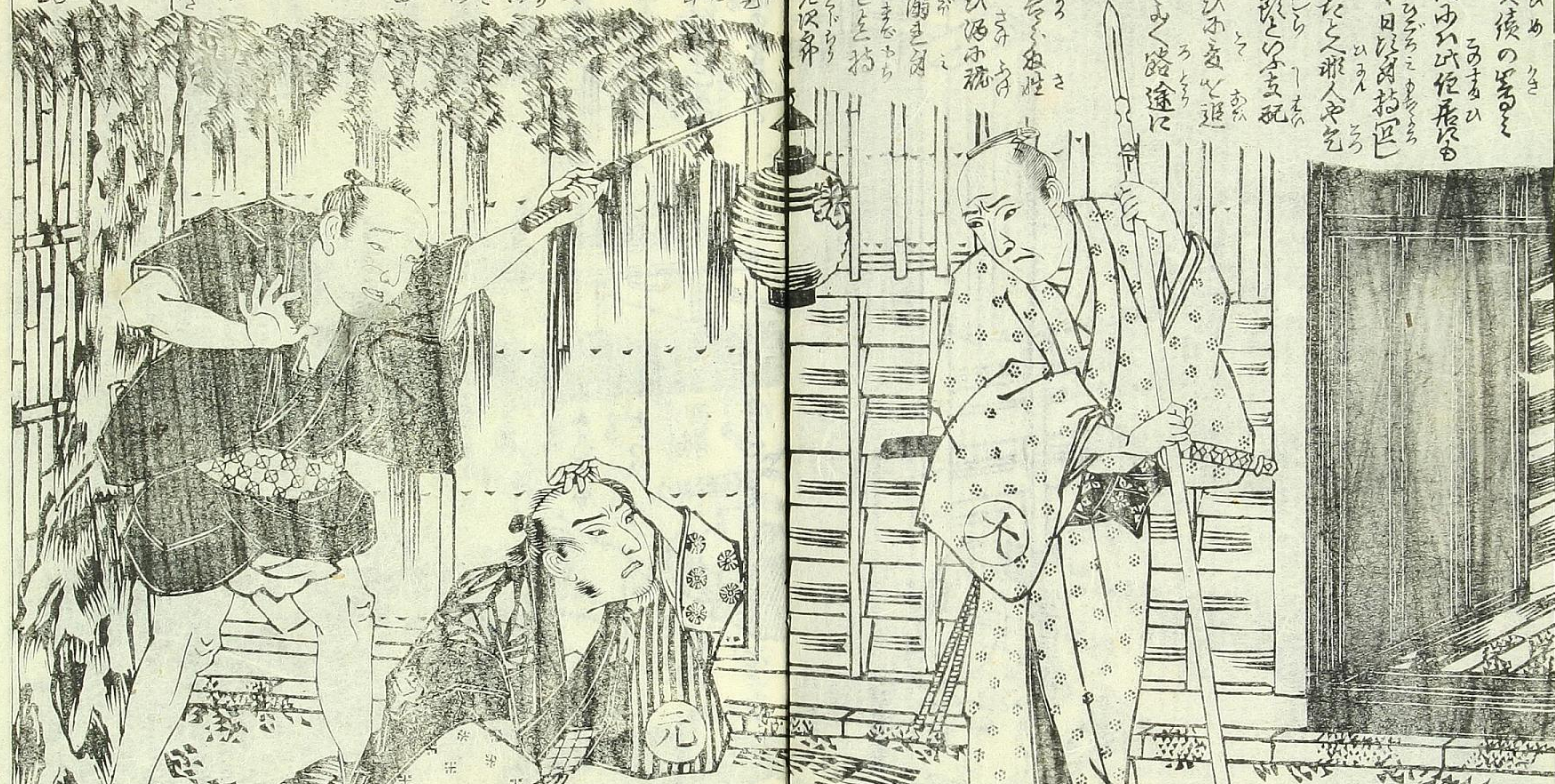
い(い)か(か)せ(せ)死(し)

性(せい)の(の)

人(ひと)の(の)形(かたち)

鹿(か)に(に)

約重六中



○百(もも)の(の)天(てん)下(げ)横(よこ)切(ぎ)

形(かたち)の(の)上(うへ)

由(ゆ)り(り)つ(つ)ひ(ひ)を(を)走(は)り

松(まつ)の(の)枝(えだ)に(に)

迷(ま)い(い)が(が)

生(な)ま(ま)る(る)ぬ(ぬ)性(せい)

候(こう)の(の)以(も)つ(つ)酒(しゆ)

前(まへ)世(よ)に(に)元(げん)宗(そう)

却(かへ)り(り)

と(と)ま(ま)り(り)

八(は)つ(つ)重(じゆう)

男(おとこ)の(の)内(うち)

蔬(しよ)と(と)務(む)

の(の)衣(え)に(に)

夜(よ)を(を)

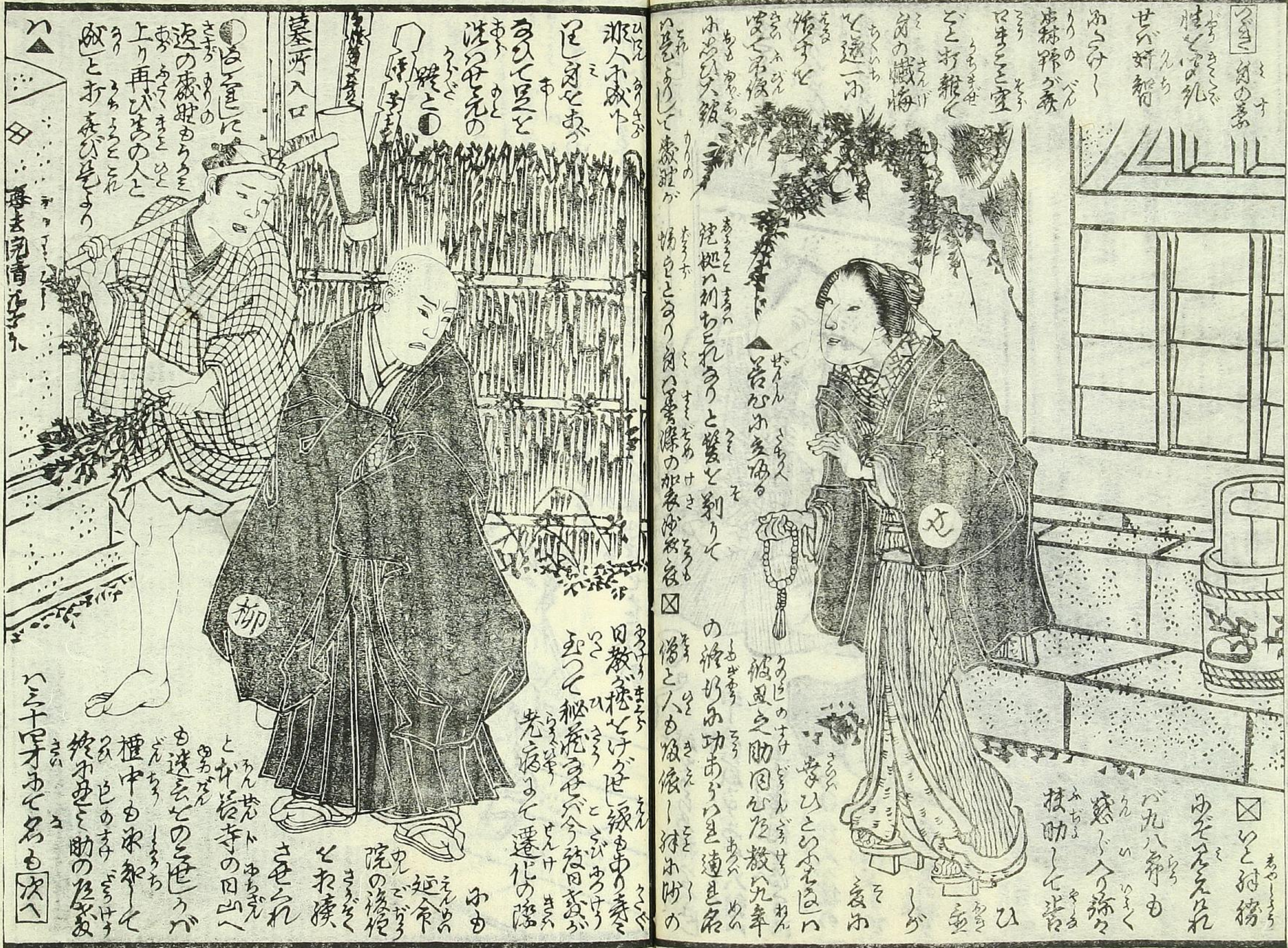
い(い)か(か)せ(せ)死(し)

性(せい)の(の)

人(ひと)の(の)形(かたち)

鹿(か)に(に)

約重六中



つぎ 角の茶

性之乳

廿八好智

あふひ

りゆの

唐錦

はまご

ごと打

の織

と遠

作

はまご

の

非人

世

あひ

洗

終

墓

透

上

成

柳

三

十

才

次

△と付

あそ

九

感

技

ひ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

七面大明神



ついでに四道と改め
 延命院の後佐とぞ
 ○おもひ道が入院より檀中へ由ま々に
 伝蔵の弘ゆるをまよとほて後後世に
 跡に人々の集りて昔の有名な後佐の陣といひ
 人あふき男のむすめ女も涙をば涙故ありとぞ
 ○木 まましく安産の七面宮谷中の志都小足と云ふ

頻りと祭劇を捧ぐ
 八まの仕奉りあり
 流し後佐へ入抱へ
 じと先檀中
 の世に人々
 彼大鼓
 流し



久保
 田ホリ長
 寺
 九公
 流びて

先ひのふらそあり
 元の所方の因縁
 くと先代
 七推挙して後中延
 余院の
 後佐とは

ついでに柳金をいふ事
我も是を思ふ所なり

是れは柳金と実合て終ふ事と云はれしが今に改て丸じて
漸くあてけ寺の役僧と云ふ所の人固方事色敷と
捨つて附けしは甲斐はさねが者位田たひ
野の波を寄して中々利のめがれが波の
女のあをを寄ひてと入城の記ありとも
金と入あれの還帰しては生海園の事い

はしまたりの中事再建の事ありとも
物語の書いどうう女犯とははあとも
はなはだの事なまりと云ふのけいせいの事
あつた永の海世の徳の命と生指とあらは
百世遊化の

下地ありて日たふ本事
再建の事ありとも
是座と初め
はれど身の過ち
小出家せ
最も
固の目た
故ありく
交引の事
あはれが柳金も
折あり
折あり
と巡るに内

下地ありて日たふ本事
再建の事ありとも
是座と初め
はれど身の過ち
小出家せ
最も
固の目た
故ありく
交引の事
あはれが柳金も
折あり
折あり
と巡るに内

新兵衛が亡霊



▲中
日檀
中は一
周忌の
伝事
ありて女
米の儀
後より彼
卒塔婆と建て
これと折金墓
更中折金
熱印塔の生
申小次へ

俄の病丸
たつ二人の姉妹
世ひを

本堂庫裏再建普請小屋

當山執事



人々を驚かす
年百三十三の
罪をせしむる
いふとのあに
と出でてはつて
あつてはつて
まゝをひか
故つて

おきんの十日
おきんの十日
おきんの十日
おきんの十日

おきんの十日
おきんの十日
おきんの十日
おきんの十日

東京繁栄大圖 八巻入 日本地誌畧 輕多篇入	開明東京新圖 銅鑄 日本史畧 輕多日	開明皇國新圖 日 小学單語 輕多日	新撰三十六花鳥 折本 和英對譯 輕多日	小学教授書 數種 近世英雄 輕多日	錦経 畫帖 名の 嘉語類 教経	文人 虫圖 扇る 千代紙 扇る	新 大 経 扇る 千代紙 扇る
--------------------------------	-----------------------------	----------------------------	------------------------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--------------------------------



和漢書籍
東錦繪
問屋

東京日本橋區
日本橋通壹丁目十九番地
大倉孫兵衛



竹ふた
者ひふた

通壹町目
大倉孫兵衛版

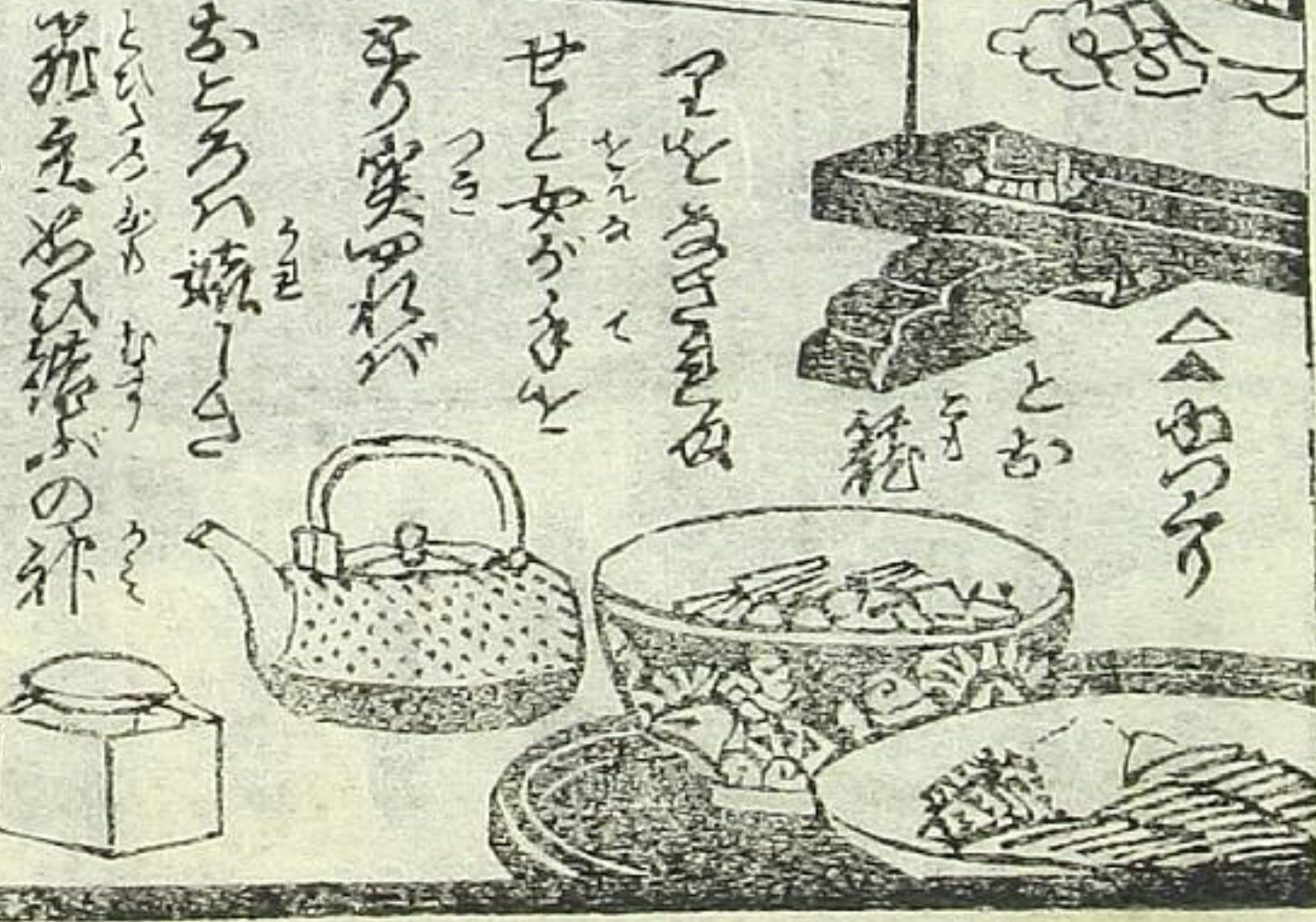
下



と親の老を
後の子を
よの授子
まをて後
傍柳を
入つて先
懐紙を
驚ろく日道



●手あらし
頼もも同業
ハ夫法飛地り
今宵一夜



●手あらし
頼もも同業
ハ夫法飛地り
今宵一夜

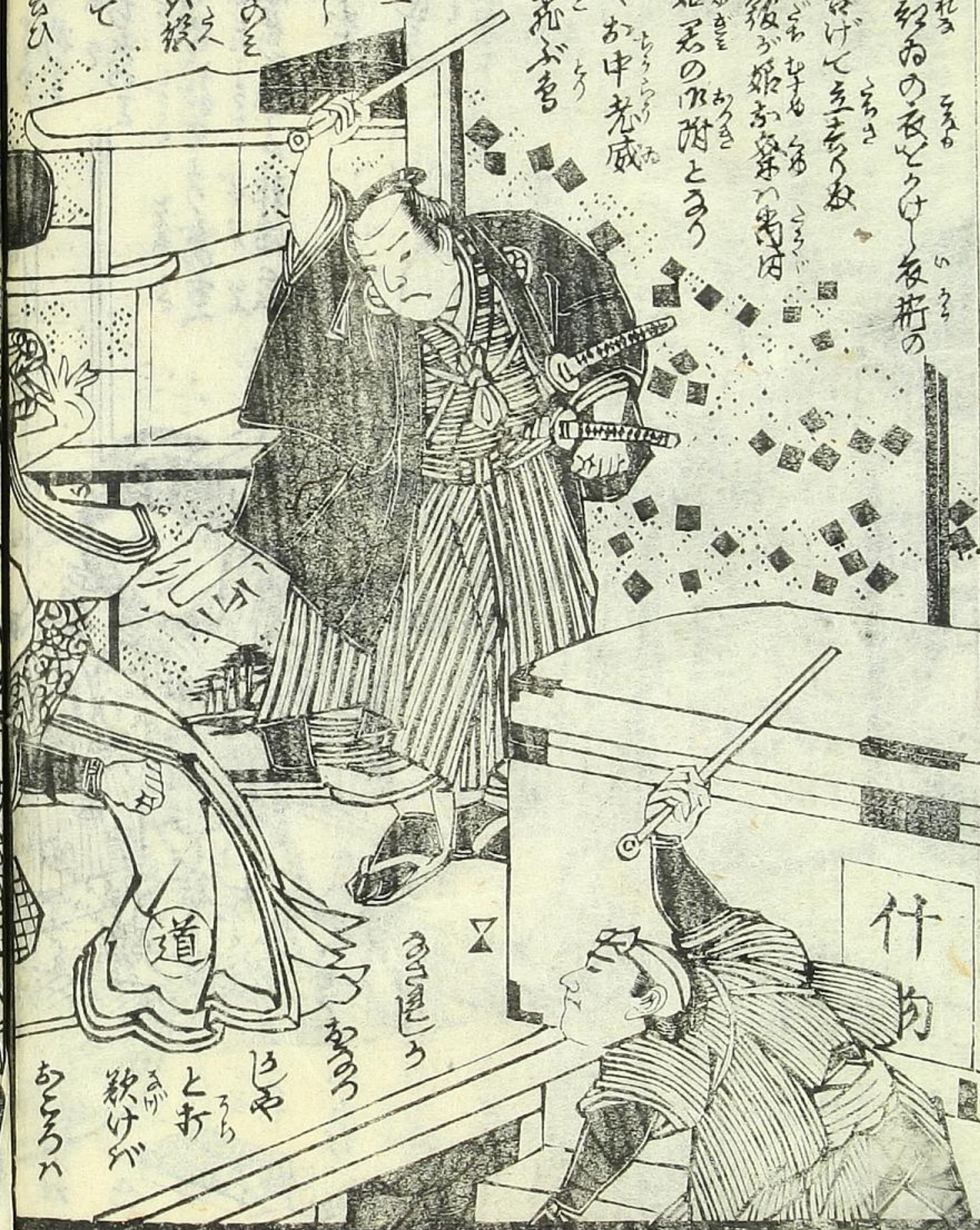
●手あらし
頼もも同業
ハ夫法飛地り
今宵一夜

●手あらし
頼もも同業
ハ夫法飛地り
今宵一夜



●手あらし
頼もも同業
ハ夫法飛地り
今宵一夜

つぎペロリと紅ぬの衣とくけー夜粧の
 かすのるをさげてまきらぬ
 ○まゆ又大娘が娘を察し内
 せんとるに姫君の内附とまう
 若女ふつくお中老威
 勢ハハ殿お花ぶる
 と落し
 河ゆく月の上
 由別を絶
 且之助が中老の
 案じてあひは
 ま今なごして
 愛ゆとまひ



道
 とお
 袂け
 あら

知して打撃
 と被屋言おと
 多うもさ
 中々中の
 延命院ゆへ行
 らは是之助か
 日たと今出
 家の一あの
 佐藏立丸
 小次郎あ
 ちん活せ
 桑村おま
 何故おま



その世
 密の
 次へ

ついでに傳りて治るが今も被戒の
 妻僧日道奈村とて由金也
 若しは是よりいかにとて
 女市にばる折令を嫁して被
 七面事のおはれりと云はる夜に
 松の屋敷より裏の料屋を往
 不備は比しきりひあつもの
 跡々寺の繁昌一折令由は



再建の発起あれ
 附のものを形にゆあひの外
 集令して何百回宛宛一か
 後小公木の功を起し二ヶ年
 普傳ゆい假懸傍の折令か合



日及が法華 並首
 下は 松の 上は 國の
 松の 上は 國の
 下は 松の 上は 國の



のあり 巧く 久く 世
 松の寺の 假懸傍の 折令か合

何事も... 女中... せ肉... ぬて... へ... 廿七... 一七... 藤... ね... 何事も... 女中... せ肉... ぬて... へ... 廿七... 一七... 藤... ね...

日蓮宗 谷中 聖徳院 日蓮 玄平 一寺... 法... さん...

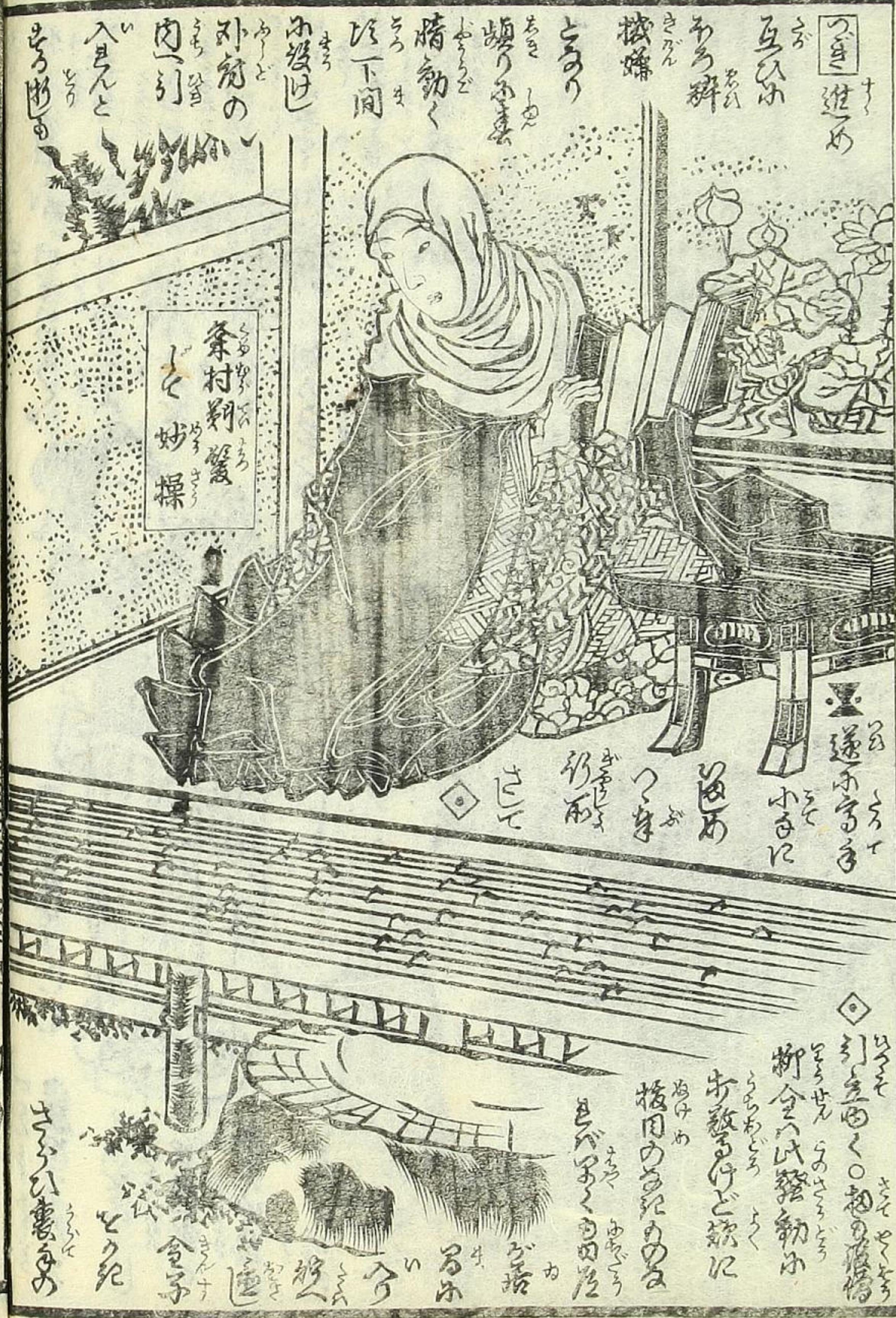


お後... 中... 海... 次...

後... 依... 外... の... 密... 示... 候... 即席... 可大... 豊島... 大富...



お... 間... 相... 教... 要... の... 豊... 可... 豊...



つぎ進め

互ひみ

あまの

機嫌

とまり

頼りなま

暗動く

以下間

おぼへ

外宛の

肉引

入ると

さる世

条村翔雲
とて妙標

遠くまで

小石に

はあ

つな

つな

はて

引き回すの初め

柳舎の以發動

赤坂の件と云に

梅田のさびのな

色づくと白屋

おぼへ

おぼへ

おぼへ

おぼへ

おぼへ

おぼへ

おぼへ

おぼへ



あれ庫

裏の方

より捕ま

の人散天勢

る侍僧

名小初

地の下に

暫く

の命を

身うち

侍あり

肘を

初を

おぼへ
とて妙標

次へ

是出

と運

おぼへ

